

## 2 第3学年 図画工作科 Ukiyoe which connects the world

教育学研究科 学習科学専攻 カリキュラム開発専修 山中 法子

### 1 はじめに

体験型海外教育実地研究では、アメリカの小学校や中学校を訪問し、学校見学や授業見学ができること、また、実際に授業実践を行う機会があるということを知りぜひ参加したいと考えた。アメリカの学校見学や授業見学を通して、日本の学校や授業について客観的に捉えてみたいという思いがあった。また、海外の子どもたちの現状について理解するにあたり、自らが授業実践を行うことを通して気づくこと、培われることが多々あると考えた。そこで、貴重な授業実践の機会もある本授業はとても魅力的であると感じた。

本授業を通して感じたり、考えたり、悩んだりした経験は、私自身の成長につながるだけでなく、将来出会うであろう子どもたちへ伝えられるものが少しでもあればよいと考えている。

### 2 実地研究の日程と概要

		交通等	訪問地・用務等	宿泊地
4/7	水	17:00-18:00 C527	説明会	
4/22	木	16:20-17:30 C527	渡航までの日程や諸準備の確認, 授業研究テーマの設定方法	
5/13	木	12:00-14:20 L204	講演「Culture and Pedagogy」	
5/23	日	10:01-19:51	J・タッカー先生, ECU 学生案内 広島駅→平和公園・宮島→広島駅	
5/27	木	16:20-17:30 C527	ホテル部屋割り 授業研究テーマ案の交流	
6/17	木	16:20-17:30 C527	学習指導案の検討	
7/15	木	16:20-17:30 C527	学習指導案の検討, 渡航のための諸手続き	
7/17	土	第1会議室	第6回学校間交流国際フォーラム	
7/18	日	9:30-11:30 C527	2010 体験型海外教育実地研究授業研究ワークショップ	
8/27	金	9:30-11:00 C527	学習指導案の検討および教材・教具の作成	
9/2	木	14:40-16:00 C527	学習指導案一部提出, 保健の手続き, ESTA 登録等	
9/11	土	広島ー成田 0745-0925 (NH-3128) 成田ーワシントン 1105-1040 (NH-2) ワシントンーローリー 1235-1340 (NH-7144)		City Hotel & Bistro Greenville
9/12	日	Dr. Warren arranged the transportation for us.	・授業準備 ・等先生方との顔合わせ	Greenville
9/13	月	City Hotel → Each School (Dr. Warren arranged the transportation for us.)	8:30-Wahl- Coates E.S.訪問 ・授業見学 ・授業実践(清水, 山中, 藤本)	Greenville
9/14	火	City Hotel → Each School (Dr. Warren arranged the transportation for us.)	8:30-Wahl- Coates E.S.訪問 ・授業実践(清水, 山中, 梅田) 11:30-Resource Center in ECU	Greenville
9/15	水	City Hotel → St. Peter's	・St. Peter's Catholic School 訪	Sheraton

		Catholic School → Sheraton Raleigh	間(学校・授業見学)	<u>Raleigh</u> Raleigh
9/16	木		・ Exploris M.S. (6-8)訪問(学校・ 授業見学) ・ 自然史・歴史博物館訪問	Raleigh
9/17	金	1025-1130 ローリーーワシントン (NH-7145)	・ ワシントン訪問	<u>Washington</u> <u>Plaza</u> DC
9/18	土		米国の文化・歴史見学	DC
9/19 9/20	日/ 月	ワシントンー成田 1220-1525 (NH-1) 成田ー広島 1750-1925(NH-3129)		

### 3 実地研究授業

#### 3.1 単元等名 第3学年 図画工作科 「Ukiyoe which connects the world.」

#### 3.2 事前準備

##### (1) 単元設定の理由

海外で授業を行うに当たり、2つの点を大切にしたいと考えた。1点目は、外国人(日本人)が授業者であることを生かした授業内容にすること。2点目は、児童が日本の芸術や文化をただ知るだけではなく、日本の芸術・文化を知ることにより自国との芸術・文化のつながりを想起させるような授業内容にすることである。

以上の2点より、私は「浮世絵」を題材に授業を行うこととした。浮世絵は日本の文化・芸術であるが、「Ukiyoe」という言葉が世界でも認知されているほど、浮世絵は世界に知られている。また、浮世絵は一見日本特有の芸術・文化であると思われがちであるが、「ジャポネズリー」「ジャポニスム」のように他国へと影響を与えていたり、反対に、浮世絵に用いられている遠近法は中国などの他国から影響を受けたものである。このように、芸術・文化は自国のみで発展するものではなく、他国に影響を与え、また、他国の影響を受けながら発展していくことを「浮世絵」という題材を通して実感させたいと考えた。

##### (2) 準備物とその意図

##### ○ 浮世絵の複数の作品(複写)

「浮世絵」という言葉は世界中で認知されつつあるが、児童にとって「浮世絵」という言葉やその意味は聞き慣れないものであると予想される。そこで、「Ukiyoe」という言葉を示すだけでなく、複数の作品を見せることにより、児童の中で浮世絵のイメージができればよいと考えた。浮世絵の複数の作品とは、「神奈川沖浪裏」「凱風快晴」「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」「三代目大谷鬼次の奴江戸兵衛」である。浮世絵の中でも代表的な作品を取り上げた。

##### ○ 浮世絵作品「神奈川沖浪裏」(実物)

葛飾北斎の作品「神奈川沖浪裏」の実物を準備した。「百聞は一見にしかず」という言葉の通り、実物を提示した方が児童に伝わるものは大きいと考えたからである。また、持参した実物は、アメリカをはじめ外国において同一作品の実物が存在する。その理由は浮世絵が版画であ

るからである。このことについて知るきっかけとしても実物を用いた。作品(実物)については、広島大学大学院教育学研究科准教授の中村和世先生のご厚意によりお借りすることができた。

#### ○ 版画(学校名「Wahl- Coates E.S.」入り)

版画の制作過程を 3 つのパート「painter」「carver」「printer」に分け、板書と共に口頭で制作の流れを説明する。しかし、児童にとって口頭のみ説明では不十分であると予測できるため、実際に制作過程を見せることとした。短時間で示すため、絵のデザイン、そして版木を掘る作業はあらかじめ私が行ったものを示し、摺る過程を児童に体験してもらう。少人数クラスのため、1 つの作品のみを用意し、すべての児童が 1 つの作品に注目するようにした。できる限り多くの児童が体験できるように、そして色を重ねていく過程を経て最終的な作品ができあがった時の感動を増すため、3版4色の作品とした。また、デザインに関しては、アメリカの子どもたちが好きそうな「龍」をメインにした。さらに、学校名「Wahl- Coates E.S.」を入れることにより、作品に興味を引くだけでなく、オリジナル作品であることを示した。



#### ○ 浮世絵の影響を受けた 4 作品(ワークシート)

浮世絵の影響を受けた 4 作品とその作品を選んだ理由は次の通りである。1 つめは、ゴッホの作品「タンギー爺さんの肖像」である。これを選んだ理由は、作品の背景が、複数の浮世絵により構成されているからである。2 つめは、モネの作品「舟遊び」である。この作品は、大胆に小舟の半分を断ち切った構図が浮世絵の影響を受けている。3 つめは、ゴッホの作品「雨の大橋(大はしあたけの夕立)」である。この作品は、歌川広重の「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」を忠実に模写したものである。「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」は複数の浮世絵作品(複写)の中ですでに取り上げているため、児童自身浮世絵の模写であることに気づきやすいと考え選んだ。4 つめは、メアリー・カサットの作品「沐浴摺る女性」を選んだ。本授業はアメリカの子どもたちを対象にしたものであるため、浮世絵がヨーロッパだけではなく、アメリカの画家にも影響を与えたことについて学んでほしいと考えた。

#### ○浮世絵の影響を受けたと判断する観点の提示

児童は浮世絵について十分な知識をもっていないため、4 つの作品の中から浮世絵の影響を受けたと思われる作品を選ぶことは難しいと考えた。そこで、浮世絵の影響を受けたと思われる点について「モチーフ」「構図」「技法」という 3 つの観点をあらかじめ与えた。

### 3.3 学習指導案

Lesson title : 「Ukiyoe which connects the world.」

Grade Levels : 5<sup>th</sup> Grade

Subject : Art

Description : In this lesson, students understand that Ukiyoe influenced the foreign pictures as picture's motif, composition and technique through choosing some picture which were influenced by Ukiyoe and explaining the reason why chose the pictures. In addition, students know that Ukiyoe was also influenced by the world.

Goal : Students realize that culture and Art influence each other over the country.

**Objectives** : As a result of this activity, the children will be able to:

1. Realize that Ukiyoe influenced the world.
2. Understand that Ukiyoe was influenced by the world.

**Materials** : Pictures of Ukiyoe, Ukiyoe(the original one),printing blocks, colors, brushes, a pad-like, palettes, rollers, Art cards, Worksheets

**Procedure:** (○purpose of the activity ◇support for pupils)

Activity	Instruction of teacher	Materials
1. Appreciate Ukiyoes ① Appreciate Ukiyoes which were drawn by Syaraku, Hokusai, Hiroshige. ② Understand that Ukiyoe are the woodcut prints through appreciating the original Ukiyoe; “Kanagawa Oki Nami Ura”	○Introduce Ukiyoe by appreciating several Ukiyoes.  ◇Interest pupils in Ukiyoe through showing the original picture. ○ Ask the reason why there is several original prints still exist in the world.	• pictures of Ukiyoe  • 「Kanagawa Oki Nami Ura」 (original one)
2. Learn the making process of Ukiyoe.	○ Make pupils understand that Ukiyoe is the woodcut-print which was divided 3 parts; painter, carver, printer. ◇ Show the printing process of Ukiyoe by using woodcut.	• Woodcut • colors • brushes • a pad-like • a paper • palettes • rollers
3. Choose some pictures from Art cards which they think were influenced by Ukiyoe and explain the reasons.	○ Make pupils understand that Ukiyoe influenced the foreign pictures as picture’s motif, composition and technique through choosing pictures from art cards which were influenced by Ukiyoe and explaining the reason why chose the pictures. ◇Distribute Art cards(Worksheets) .	• Art cards • Worksheets
4. Listen the story that Ukiyoe was influenced by foreign country.	○tell that the perspective of Ukiyoe was influenced by the Netherlands and China etc.	
5. Write a impression of this class.	○Give a worksheet and talk about my impression of this class.	• Worksheets

### 3.4 授業の実際

本授業の流れは、大きく3つの部分に分けることができる。

#### (1)浮世絵の鑑賞と制作工程の紹介

まず、浮世絵に親しみ、興味を抱かせるために、「神奈川沖浪裏」の実物作品など複数の浮世絵を紹介した。提示した浮世絵作品を見たことがあると答えた児童は数人のみであった。次に、浮世絵は版画であり、浮世絵の制作過程は絵師、彫師、摺師の3つのパートに分かれていることを知らせた。そして、摺師のパートについては、児童が実感をもって理解できるように、その過程を体験させた。児童は色を重ねるごとに「龍」や「学校名」が浮き上がることへ興味を抱いていたと共に、最後の黒色を入れると、歓声があがった。



#### (2)浮世絵が他国の絵画に与えた影響

ゴッホやモネ、メアリー・カサットの4作品の中から、浮世絵の影響を受けていると思われる作品を選択させた。また、選択理由について「①motif, ②composition, ③technique」の選択肢の中から選ばせた。この活動は、ワークシートを用いて個人個人で行った。児童の中には、選択肢の「composition」という言葉が難しかったり、また、浮世絵についての知識が豊富でないため、学習内容そのものが難しそうであった。ワークシートを基に、クラス全体で1つ1つの作品についてどのような影響を受けているのか児童の発表を通して明らかにした。

#### (3)本時の感想

授業を通して印象に残ったこと、感じたことなどをワークシートに書かせた。感想には、やはり浮世絵の摺る過程に関する記述が多く、多くの児童が制作過程については実感を伴った理解ができていたようである。しかし、本時の目標に関しては達成は難しかったようである。最後に、筆者が授業を通して感じたことや今回の出会いについての思いを話し、授業のまとめとした。

### 3.5 考察

○浮世絵の制作過程について、児童が体験する活動を取り入れる ことにより、実感を伴った理解を促せた。

○言葉のみに頼るのではなく、浮世絵のコピーや実物、版画の実践など、視覚的に分かりやすいように工夫することが理解につながるようになった。

●3年生の児童にとって、浮世絵の影響について学ぶという内容は難しかった。初めて浮世絵を目にした児童が多く、浮世絵について十分な知識をもっていなかった。その中で、浮世絵は「モチーフ」や「構図」などの点で他国の絵画に影響を与えたことを学ぶことは児童の実態と合致しておらず、難しかった。授業設計をする際に、筆者が授業を通して伝えたいことと児童が学びたいことの間を埋めていく必要がある。

## 4 体験型教育実地研究における自己変容

### 4.1 教育観の変容

授業実践を通して、国に関係なく、授業づくりの基本は児童理解と教材理解であると再認識

した。教師が伝えたいこと、それは児童の興味や実態にどの程度適合するものなのか、また、適合させるためにはどのようなような伝え方がより効果的なのか考え、工夫することがとても大事であると感じた。例えば、日本語では言葉による説明に頼りがちになるが、英語では十分な説明ができないため、視覚的に分かりやすいような工夫が求められる。これらのことは、日本においても児童の理解を促す際に重要な点である。また、アメリカの授業は集団での学び合いというよりは個々の学習を重視しているように感じた。一方、日本の場合は、集団での学び合いを通して個々を高めると私は捉えている。このような日本の授業の概念をベースとしながらも、アメリカのように個に応じた指導をより充実させることで、よりよい授業となるのではないかと感じた。

#### 4.2 自分自身についての変容

外国人とコミュニケーションを行うためには、その方法となる言語、そして、伝え合いたいと思う内容、この両者が必要であることを実感した。特に授業では、伝えたいことの前提として日本に関する知識や経験、体験等が必要不可欠であると感じた。例え英語が流暢に話せたとしても、やはり伝えたい内容に魅力がなければ、また、曖昧であれば他者とのコミュニケーションはうまく機能しないのではないだろうか。一方、伝えたいことが豊富にあっても、ある程度言語で表現する力がなければなかなか伝えることは難しい。もちろん、ジェスチャーや表情などのノンバーバルコミュニケーションも欠かせず、コミュニケーションを行う際に非常に重要な要素となる。しかし、より深い交流を行うためには言語が欠かせないと実感した。そのため、日頃から様々なことに興味を持ち、それに対する自分自身の意見をもったり、また、英語を今まで以上に学習する必要性を感じた。これにより、今回感じた外国人とコミュニケーションすることの「楽しさ」以上の楽しさを得られるのではないかと考えている。

#### 4.3 グローバルマインドに関する変容

アメリカ人はやはり表現力がとても豊かであると感じた。もちろん個人差もあるが、話す口調やジェスチャー、表情、笑い方など接していてとても魅力的だと思った。国民性も関係していると思うが、日本人と比較したときに、自分の思いに沿った素直な表現が当たり前のようになされている。また、アメリカにおいて私たちを支援して下さった多くの先生方や関係者は、本当に快く私たちを受け入れて下さった。アメリカ人と時間を共有する中で、他者を当たり前のように受け入れ、そして積極的にコミュニケーションをはかろうとする姿は私自身、見習うべき点であると感じている。

### 5. おわりに

体験型海外教育実地研究への参加を通して、貴重な経験ができたと共に、多くのことを学ぶことができました。これから、この経験や学びを日本の教育に生かしていけたらと思います。

ご指導いただきました GPSC の関係者の先生方、そして、アメリカで私たちを快く迎えてくださいました先生方や関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。